

所在地・離島診療エリア



ホームページのご案内

コールメディカルクリニック福岡  
公式ホームページは、こちらの  
QRコードからご確認ください▶



<https://www.call-med-fuk.com/>

採用について

ご興味のある方は、  
まずはお問い合わせ  
ください▶



<https://www.call-med-fuk.com/recruit/>

24時間  
365日  
○百年

“生きる”に寄り添う

チームになる。



TEL 0940-62-8355

〒811-3516 福岡県宗像市公園通り1丁目9-3

診療時間 月曜～金曜 8:30～17:30 休診日 土曜・日曜・祝日



CALL  
MEDICAL  
CLINIC  
FUKUOKA

医療法人  
コールメディカルクリニック福岡

## 理念

# 24時間365日〇百年 生きるに寄り添うチームになる！

この10年間「生きるに寄り添う」を理念に掲げていましたが、ほんわかとしていて、本当の強い覚悟を表現することが出来ていませんでした。

我々は新たに「24時間365日〇百年」「チームになる」を追加します。

特に「〇百年」というキーワードはこれからの我々の向かうべき方向を示す重要な羅針盤になると考えています。〇百年続くために、一人の力でなくチームで、今だけでなく未来への人材育成システムを構築していく所存です。

## 3本の柱

高齢者  
医療

3つの柱\*  
(全体の中心)

緩和  
医療

障害児  
医療

※在宅医療・訪問リハビリテーション・医療型特定短期入所など

## MESSAGE 理事長あいさつ

自分が救ったその人たちの残りの人生をどう生きるかまで考えられる医療を提供できないのだろうか…。「患者さん、いや、ひとに必要な医療とは何か？」これを追い求めた結果、在宅医療に辿りついたように思います。目的地を同じくするスタッフ、患者さん、そのご家族、地域と共に、「生きる」に寄り添う医療をこれからも追い求めコールメディカルクリニック福岡は進化していきます。変わりゆく当院をぜひご覧ください。

理事長 岩野 歩



## 行動方針

- 1 どのような状況であっても、望む場で望むとおりの生き方を共に追い求めます。
- 2 「患者さんに何が必要か」それにより我々は新たに知識・技術を習得し行動します。
- 3 医療者への教育を通じて在宅医療の普及に努めます。
- 4 地域への情報の発信を通じて在宅医療の普及に努めます。
- 5 リスクマネジメントを通じて組織の向上を目指します。

## 在宅医療を行う上で 3つの柱を軸に 活動をしています。

私たちが医療従事者としてできることはなにか、医療とはなにか、常にぶれない理念で、ひとに・地域に寄り添い続けるクリニックを目指します。

宗像市、福津市、岡垣町にお住まいの方だけでなく、離島まで。赤ちゃんからお年寄りまで、すべての方が住み慣れたご自宅で最期の時まで「そのひとらしく」過ごせるように。私たちは全力で向き合います。



## HOME MEDICAL CARE

### 在宅医療（訪問診療）

自宅という場所でどこまで医療を提供するのか、常に本人やご家族の気持ちを大切にしながら共に歩みます。がん末期やALSをはじめとした神経難病、気道・人工呼吸管理に関するご相談を多く頂戴しており、各医療機関や多職種と連携をしっかりととりながら、一人ひとりの「生きる」に寄り添う訪問診療を実施しています。



## REHABILITATION

### 訪問リハビリテーション

通院が困難な方々に対し、全体的な日常生活活動（ADL/IADL）の維持・回復を図り、住み慣れた地域でより豊かな生活が送れるよう、当院のリハビリスタッフ（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士）がご自宅で、心と身体の状態や生活環境を踏まえた支援を行っています。

#### 訪問リハビリへの思い

リハビリの目的は「筋トレ」ではなく「人間の尊厳の復活」です。ひとが尊厳を失いそうになる時、それは死が間近に迫ろうとしている時、大事な人を失ってしまう時、障がいを持ってしまった時などではないでしょうか。そんな時に少しでも日常から、大事な人とのつながりから離されることが無いようにリハビリはあるべきと考えます。だから、日常の場で、大事な人の傍で行う訪問リハビリにこだわります。



## FOOT MARK

### 医療型特定短期入所事業 小さなあしあと

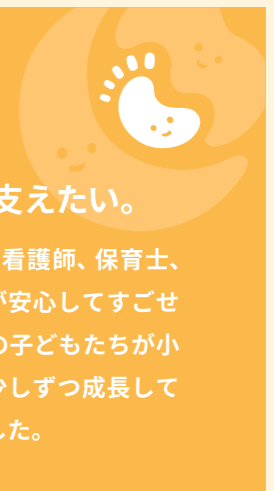
人工呼吸・気管切開・胃ろう・中心静脈栄養など、なんらかの医療行為を常日頃から必要としている子どもたちがいます。この子どもたちは医療的ケア児と呼ばれています。しかし、我々はこの子どもたちを医療的ケアを必要としているだけの地域にいる普通の子にしていきたいと考えています。そこに行きつくには我々がもっと子どもたちの事を知ることから始まります。そういう文化をこの地域に醸成させていく、いろんな仕掛けを作り上げていく所存です。



#### 設立の想い

みんな違ってみんないい、一人ひとりの成長を家族と共に支えたい。

介護者の方のレスパイトを第一の目的に看護師、保育士、リハビリ技師、医師などが在中し利用者が安心してすごせるようにサポートしていきます。利用者の子もたちが小さな一歩から日々新しい経験を積んで、少しずつ成長していくように「小さなあしあと」と名付けました。



### 相談支援事業所 小さなあしあと

障がいのある方やそのご家族の心身状況、その置かれている環境等を把握し、皆様にとって必要なサービスが利用できるように、また、安心して生活できるように相談支援専門員がお手伝いをしています。



## 在宅でもできる医療行為

がん末期やALSをはじめとした神経難病、気道管理・人工呼吸管理に関するご相談を多くいただいています。できるだけ一人ひとりの希望をかなえる医療体制を整え、常に良い医療を積極的に取り入れていますので、医療体制についてご不明点などがありましたら、お申し付けください。

詳しくは  
ホームページを  
ご覧ください▶



PICC



胸腹腔穿刺



超音波画像診断装置・  
ポケットエコー



レントゲン



血液ガス分析器



気管カニューレ交換



PCAポンプ



IPV(パーカッションア)



## 最期の時まで「生きる」を支える体制

「在宅看取り」という言葉があります。「家で死を迎えた」ことに焦点を絞るのではなく、トコトン自分の思うように生き続けた結果、最期の場所が家であった、と我々は考えたい。

最期の時まで生きるを支えるには医療だけではなく、ひとそれぞれが持つ生きる支えを見出し、それを強める仕掛けが必要です。

地域全体でその仕掛けをいかに作るか、試行錯誤を繰り返しているところです。



● 適切な説明と一人ひとりの人生会議 (ACP | アドバンス・ケア・プランニング)

● 最期まで本人・ご家族の不安を少なくし、生活ができる環境づくり

● 苦しみを和らげる医療・ケア・言葉かけ

■ 医師・ケアスタッフ

■ 医師

■ ケアスタッフ

## 1日の流れ



午前



8:30 出勤  
朝の全体カンファレンス



9:00 出発



12:30 帰院(昼食)



13:30 出発



午後



17:30 帰院  
使用物品の補充・片付け



## コールメディカルクリニック福岡の 働き方挑戦応援制度

開業・独立応援・開業後の体制見直しや  
メンテナンス

医師の方で将来的に独立を考えているという方も応援します。共に過ごした仲間が巣立つのは寂しいですが、地域を支える同志として、応援できたらと思っています。また、巣立っていった仲間から「開業時、人手不足になり困ることがある」という声を聞いてきたので、地域医療を支える仲間として連携が取れる関係でいられたらと思います。

また、開業後の体制見直しやメンテナンス、意見交換を行い、お互いにより良い医療を提供できる体制を構築していけたらと思います。

## MESSAGE 医療関係者様・ケアマネジャーさんへ

医療・福祉・行政に関わる多職種の方々と連携し、スムーズな訪問診療への移行を実現するためにご要望などがございましたら、遠慮なくお申し付けください。

よりよい在宅医療を提供できるよう、努めてまいります。

## 居宅・施設比率

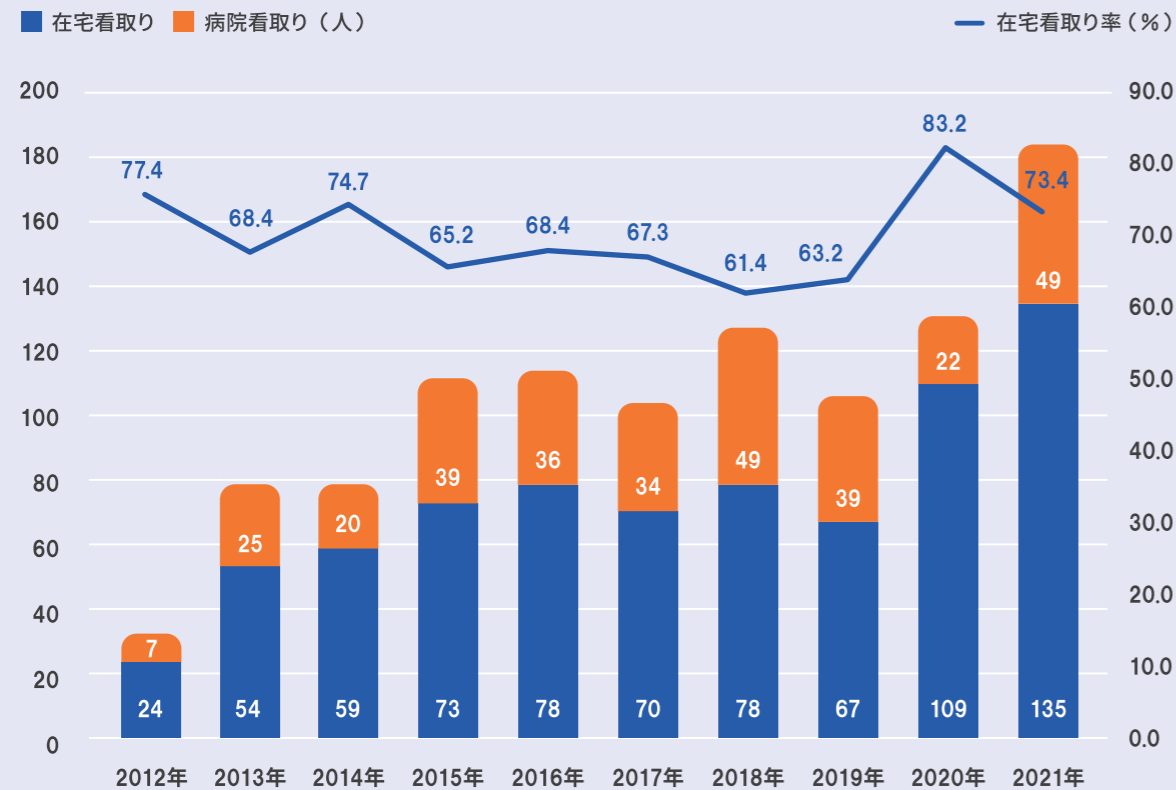
居宅 7 : 3 施設



現在は御自宅での訪問診療の比率が高い状態です。我々は在宅医療を単に「家で行う医療」と考えず、「ひとそれぞれの多様性にトコトンお付き合いする医療」と考え、それをなせる場が家である事が多いからこのような結果になっています。

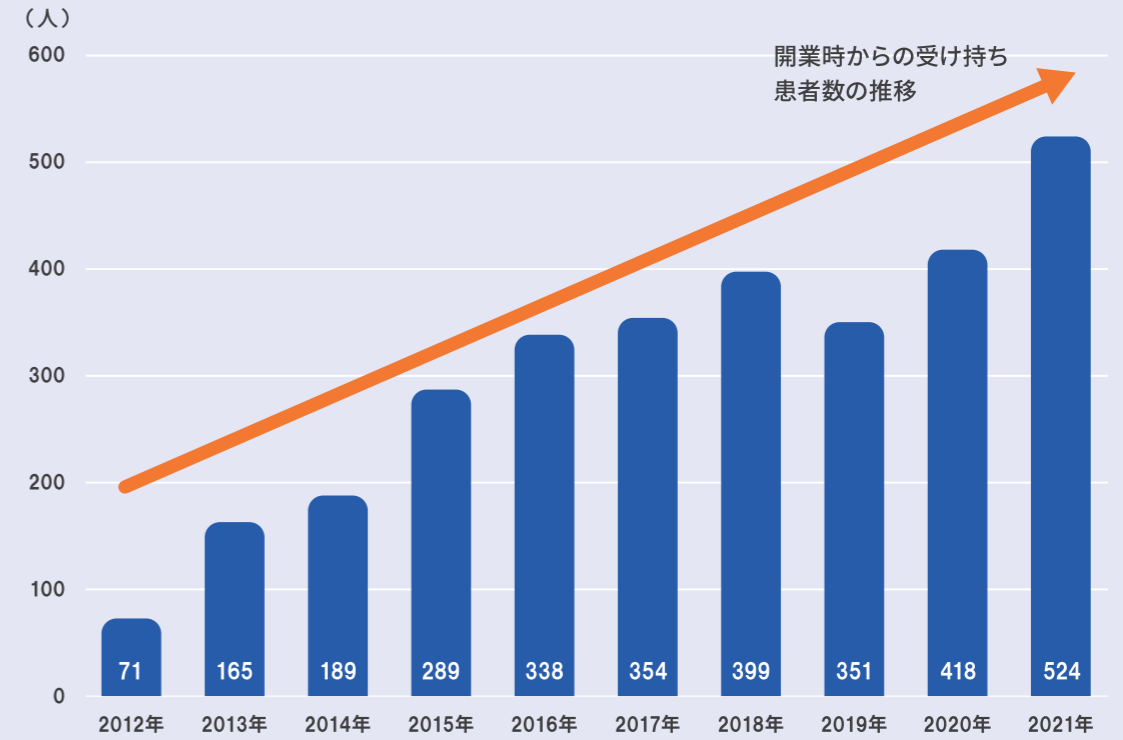
家のような施設もあれば、病院のような施設もあります。地域に家のような施設がもっと増えていくような文化を築きあげることが、我々のこれからの使命の一つと考えています。

## 2012年からの看取り患者数の推移

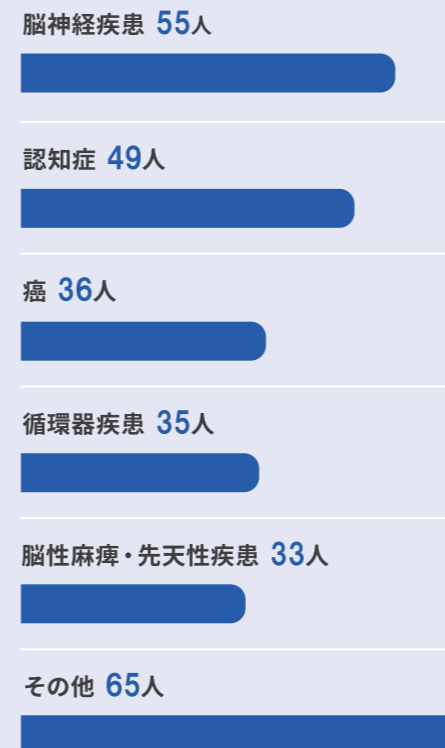


在宅看取り数は在宅医療の質の指標の一つであると言えます。昨年度は一番多くの在宅看取り数を経験しました。しかし、果たして最期の時まで生きるに寄り添っていたのか？多忙な故に、細やかな症状・心身のケアが出来ずに家で穏やかに最期まで過ごせたとは言えない事例が増えたように思います。また、最期を迎えた後も残された家族の心のケアに関してもますます充分とは言えない状況に陥っています。在宅看取り数を在宅で死亡診断書を書いた数と勘違いしないように在宅医は自省を込めて謙虚に見つめる必要があります。

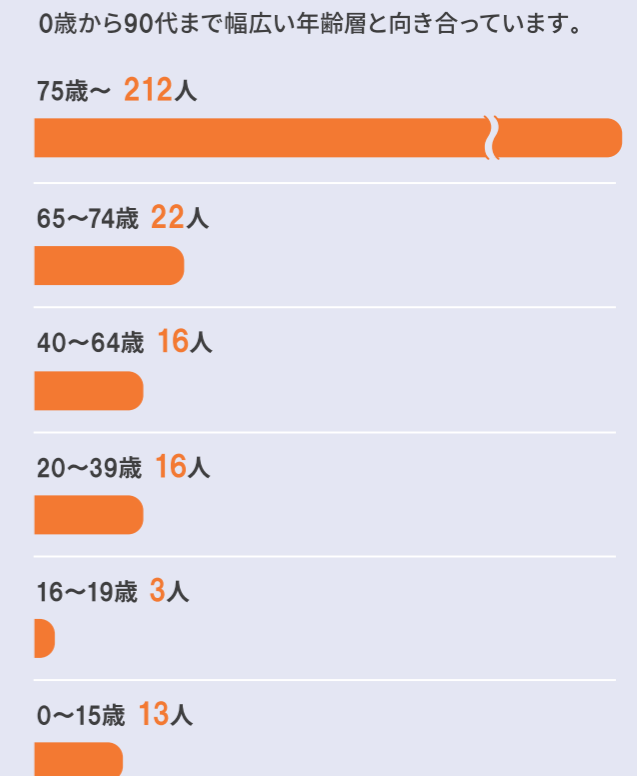
## 患者数の推移



## 疾患比率※



## 年齢比率※



※2022年1月19日時点

# 離島診療支援



近い将来、日本の多くの地域が人口減少社会に立ち向かわなくてはならないことが想定されています。

離島・へき地はいち早く現在この問題に直面しています。

医療介護資源の乏しい離島へき地でいかに地域医療を提供するか。いや、いかに地域を再構築していくか、私たちは新しいチャレンジをしています。離島へき地の問題に立ち向かう事は数十年後の日本の多くの地域を救う道しるべになると考えています。

求める声がある限り、  
私たちは挑戦します。



## 「24時間365日〇百年 離島を支えるチームになる！」 新たな離島診療支援モデルの提案

島の人は正直、ずっと居てくれる先生のほうが良いけれど、ある一人の先生が頑張ったとしても、24時間365日を数年なら頑張っても〇百年は無理でしょう。チームで支える必要がありますが、人口の少ない地域に複数の医師が居る事は経済的にも不可能です。多くの医師を抱える事の出来る集団から定期的にサポートに行く、そして集団はその島の事を知っていて(情報共有ができていて)その島の事を愛している集団であるべきと考えます。コールメディカルクリニック福岡はそのような集団を目指します。2~3年でなく、〇百年支える事を目標にします。「新たな離島診療支援モデル」を提案したいと考えています。



## 〇百年後も求められる“在宅医育成道場”としての離島へき地

在宅医療は日本の医療を大きく変えるパワーを持っていると考えています。しかし、いろんな在宅診療所があるがその中身はさまざま…。地域のための在宅医療ですが、狭い地域だけに居て時代と共に新たに訪れる諸問題に対応できるまでに質を高めることが出来るのでしょうか?このままではありきたりの在宅医は飽和し、それでいて地域に本当に求められる在宅医は枯渇するのでは…。究極に資源の無い離島へき地で研鑽することは、未来に求められる在宅医への近道と考えています。

### 現在の離島診療状況

- 下甕島(鹿児島県)手打診療所(今後、常勤医増が実現すれば、更なる拡充を行う)  
※月1回1週間弱の代診事業を実施。 ※ドラマ「Dr.コトー診療所」のモデルとなった診療所です。
- 地島訪問診療を実施
- オンライン診療システムの利活用

### 在宅医療の価値を高める ~在宅医療の価値を情報発信する場としての離島~

離島へき地は診療所での救急総合診療に加えて、在宅医療を相当に必要としているはずですが、しかし、人的資源の不足から断念している側面があります。在宅医療により離島へき地を良い方向に変えることが出来れば、まさに在宅医療の価値を高め、そして全国に向けてその価値を発信する場になると考えています。

# OUR FUTURE 私たちのこれから

病気の人も 病気でない人も、すべての人が集まる場所。  
ひととの出会いで地域が強くなる  
「ケアタウン」を作ります。



## Team Power of Community

### 地域の力

いわゆる“弱い”と言われている人も地域の力があれば、強くなるのが  
出来ます。そして、そういう地域はさらに強くなっていきます。

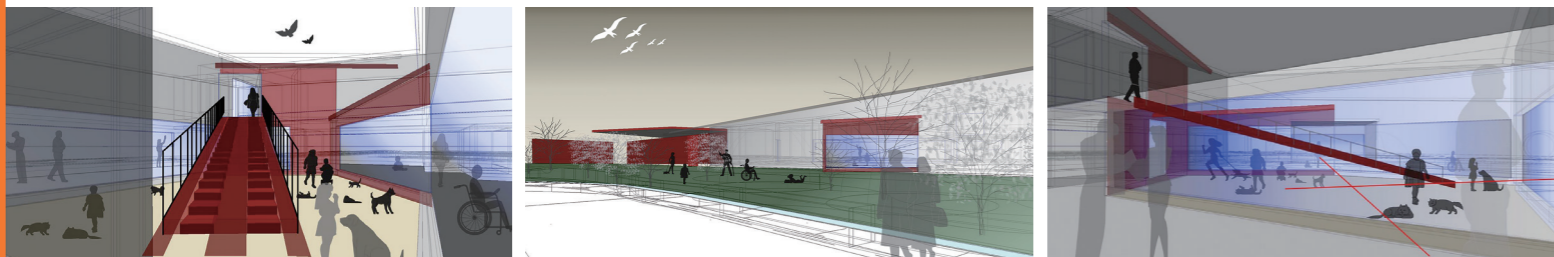
いわゆる“健常”と言われるひとでないと生きていくことが難しい地域はこれからの超高齢化・人口減少社会において、  
ますます弱り、やがて消滅してしまうのではないのでしょうか。

誰一人見捨てることなく、すべてのひとを強くすることによって、自らも強くしていく地域、そんな地域の力を信じて我々  
は「Team PoCo」を結成します。

いわゆる健常者と言われるひとたちも、  
いわゆる障害があると言われるひとたちも、  
このケアタウンにやってきて、  
誰もが特別視されないフラットな状態。  
そんな場所を作ります。

新たな出会いによって、お互いの相互作用で街がどんどん  
活性化していく。ケアタウンの中に畑やアニマルセラピーが  
あったり、隣にはカフェ。

一人では難しいことも、誰かと一緒ならできる。  
一人でもできることも、誰かと一緒ならもっとよくできる。  
そんな考え方でどんどん進化する街です。





## 訪問事業所が「Team PoCo」の仲間に加わります。

在宅医療に必要なものは、色々ですが、訪問医よりもっと大切なのは訪問看護師であると考えます。

なぜなら、「家で穏やかに生きる」には、医療行為も大事ですがまず先に生活です。医療と生活をバランスよく紡いでいくのは医師よりも看護師の得意技ではないでしょうか。ミニ医者のような看護師ではなく、医療的知識とひとそれぞれにある人生の物語のバランスをうまく取り、関わったひとの生きるを巧みに柔らかく、暖かく支えていく訪問看護師のチームの育成を目指します。

私たちはこれから先もずっと一つのチームとしてあらゆるひとの生き方を支えて行きます。

○百年という未来まで、地域医療を提供するにとどまらない、地域づくりまで手がけるチームを目指します。そのためには、医療に従事する専門職育成にとどまらない、いろいろな地域のひとを紡いでいながら、地域全体が成長していく仕組み作りが必要と考えます。

その仕組みの核になれるように、当法人は変化を続けます。

至らない、未熟な部分はまだまだまだ多々あるチームですが、地域の皆さまに育てて頂ければ幸いです。これからのコールメディカルクリニック福岡も、宜しくお願いいたします。

理事長 岩野 歩

